

第 18 回 静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 開催日時 平成 29 年 3 月 27 日（月） 午前 10 時 00 分～午後 0 時 00 分
- 2 開催場所 静岡市清水産業・情報プラザ
- 3 出席者 **【委員】**
山内委員、鳥羽委員、小澤委員、上妻委員、杉山委員、立岩委員、
牧野委員、松岡委員、望月（有）委員、望月（磨）委員
【事務局】
赤堀経済局長、杉山参与兼産業振興課長、森地場産業担当課長、
佐藤産業振興課長補佐、山本参事兼地場産業係長、松浦工業振興係長、
松田主任主事、寺田主任主事
- 4 傍聴者 一般傍聴者 なし 新聞記者 なし

5 開 会 （事務局：佐藤産業振興課長補佐）

定刻となりましたので、第 18 回静岡市ものづくり産業振興審議会を開催いたします。本日は、お手元の次第に従いまして、会議を進めていきたいと思っております。まず、会議を始める前の確認事項といたしまして、3 点お知らせいたします。本日は、長澤委員から、所用のため欠席するとのご連絡をいただいておりますが、その他の皆様にはご出席をいただいておりますので、静岡市ものづくり産業振興条例施行規則第 6 条第 2 項、「審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない」との規定により、本日の審議会が成立していることをご報告いたします。2 点目としては、会議の「公開」であります。静岡市では、「附属機関等の設置及び運営に関する指針」に基づきまして、ものづくり審議会を含めた附属機関の会議は、原則公開となっております。本日の会議については、非公開事項となるものを含んでおりませんので、公開としたいと思っておりますが、皆様、よろしいでしょうか。

【各委員】了承

（事務局：佐藤産業振興課長補佐）

それでは、公開といたします。

また、審議の経過等によりまして、非公開とすべき事項が生じた場合には、その都度、その旨を皆様にご決定いただくこととなりますので、よろしくお願いたします。

3 点目としては、「会議録」についても公開となりますので、事務局で会議録を作成し、

会長と他委員1名のご署名をいただき、公開の手続きを行いたいと思います。会長以外の署名人としては、上妻委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか？

【上妻委員】 了承

(事務局：佐藤産業振興課長補佐)

ありがとうございます。

それでは、次第2の「会長あいさつ」から、本日の審議会を始めたいと思います。山内会長、お願いします。

【会長挨拶】

皆様お久しぶりです。静岡市ものづくり産業振興審議会会長の山内でございます。

近頃、テレビや新聞等のメディアで、市内でオリーブの生産やウイスキーの製造などの新しい産業が育っていることや、年間50隻もの外国船の寄港、フィリピン人をはじめとする外国人による家事代行サービスなど、様々なニュースを目にします。我々審議会としては、こういった世の中のトレンドをいかに早くとらえることができるかが非常に重要であると感じております。また、昨年8月にIoT勉強会も開催させていただきましたが、IoTの分野でも同様のことが言えると思います。本日は、こういった話題も盛り込みながら、実のある会議にできればと思っております。よろしく願いいたします。

(事務局：佐藤産業振興課長補佐)

山内会長、ありがとうございました。

続きまして、次第3の「経済局長あいさつ」へ移りたいと思います。赤堀経済局長、お願いします。

【局長あいさつ】 赤堀経済局長

皆様、本日は年度末のお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。経済局長を務めております赤堀でございます。

前回の審議会では、委員のみなさまのお立場より、本市ものづくり産業の現状や課題についてご意見をいただいたところです。その中で、基本計画に登載されている事業の進捗状況に対するご質問をいただいておりますので、後ほど、事務局よりご説明させていただきます。

さて、今年度の新たな取り組みとしまして、先ほど山内会長からもお話のありましたとおり、IoT勉強会を開催させていただきました。IoTの技術は、単体でも産業となりうる技術であり、さらにはその他の様々な産業にも影響を及ぼす波及効果の高い技術として、今後の日本のものづくり産業の重要なキーワードであると捉えております。

本日は皆様が多角的なご視点から、ご議論いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：佐藤産業振興課長補佐)

次に、議事に入る前に、今回の審議会より新たに委員になっていただいた方をご紹介しますと思います。これまで市民委員として就任いただいております藤井委員より、昨年6月ごろにご本人のご事情により委員を辞退したいとの申出が提出されましたので、事務局にて市民委員を募集し、望月磨悠委員に就任いただくこととなりましたので、この場を借りてご紹介させていただきます。

【望月磨悠委員自己紹介】

今回の審議会より委員に就任いたしました、望月磨悠と申します。私は市内の会計事務所勤務しながら、大学へ通っています。大学では、地域の経営戦略について学んでおり、地元静岡市の地域公共政策にも関心を持っていました。至らない点も多いかと思いますが、精いっぱい務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：佐藤産業振興課長補佐)

ありがとうございました。では、ここから次第4「議事」に移りたいと思います。

今後の議事進行については、ものづくり産業振興条例施行規則第5条第3項、「会長は、審議会の会議の議長となる」との規定によりまして、進行を山内会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【山内会長】

それでは議事の内容に移ります。

まず、1点目として進捗状況についての報告、2点目として第3次基本計画策定に向けてのスケジュールについてですが、この2つについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局：佐藤産業振興課長補佐)

それではまず議事(1)第2次ものづくり産業振興基本計画掲載事業進捗状況のご報告について説明させていただきます。

皆様のお手元に、事前にお送りした「平成27年度静岡市ものづくり産業振興基本計画に関する実施状況の報告について」という冊子と、本日配付しました、資料1をご用意ください。

資料1は、前回の審議会でもみなさまよりいただいたご質問やご意見に対する、市の方針・対応状況等をまとめたものになります。時間の都合上、この中から2つほどご説明したいと思います。

まず、資料1のNo.1「製造業小規模事業者の後継者不足」をご覧ください。「中部の小規模事業者、特に後継者がいない事業者は、設備投資への手控えがあるように感じられるため、人材確保・育成の支援が重要課題である」というご意見については、本市では平成28年度より「人材マッチング事業」を開始いたしました。当事業では、中小・小規模企業から人材に関する相談内容に応じて、ポリテクセンター静岡、清水テクノカレッジ、産業雇用安定センター、県シニア人材バンク、県プロフェッショナル人材戦略拠点等の市内の職業訓練等機関又は人材専門機関へ繋ぎ、人材確保の後押しをする仕組みを構築しました。

なお、人材育成支援については、本年度構築した職業訓練等機関とのつながりを活かした育成支援のあり方について、今後検討をしていきたいと思っております。

また後継者がいない事業者への対応策の一つとして、事業承継に関するセミナーを県事業引継ぎ支援センターの協力のもと実施しており、その他、市の制度融資において事業承継に係る支援資金制度を設けるなどしていることから、まずはそれらの周知等を通じた対応を行ってまいります。

次に、No.3「地場産業の新たな後継者問題解決の施策」をご覧ください。「現在若手と呼ばれる職人の年代は60歳代であり、後継者不足が非常に深刻である。これまでの支援策は継続しつつ、新たな施策展開に期待している。」というご意見については、本市では伝統工芸業界の後継者確保、育成のために、クラフトマンサポート事業として、①現場実習短期支援(3ヶ月)、②現場実習長期支援(2年)、③独立支援の3事業を実施してきました。しかしながら、②から③への移行がスムーズにいかない、2年間の見習いだけでは生活ができるほどの収入に繋がらないなどの課題があったことから、平成29年度はこれらの課題を解決するため、雇用奨励金制度を新設し、若手職人の伝統工芸業界定着を目指してまいります。

その他の内容につきましては、資料をご覧くださいいただけます。

続きまして、「平成27年度静岡市ものづくり産業振興基本計画に関する実施状況の報告について」という冊子についてご説明いたします。こちらは、ものづくり産業振興条例第8条第7項、「市長は、毎年度、基本計画の実施状況を市議会に報告するものとする」との規定によりまして、毎年9月に正副議長に対し、基本計画の実施状況を報告する際に使用している報告書でございます。

2頁に記載されている「図1 基本計画体系図」をご覧ください。この基本計画は、「多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡」という目標の達成に向けて、図1のように体系化が図られたものであります。みなさまご存知のとおり、基本計画では8つの重点項目と5つの方針を定めており、5つの方針の中には21事業が掲載されておりますが、その基本計画全体の実施状況を、どのように評価しているのかをご説明します。

まず、21事業にそれぞれ設けられた成果目標について実施状況を評価します。次に、その評価内容に基づき、5つの方針についての評価をし、最後に基本計画の実施状況を包括

的に評価するというように、積み上げ方式で実施しております。

重点項目及び各方針の実施状況を把握するために、3頁の「表1 成果目標に対する各種事業の進捗状況等」のとおり、21事業を「A（成果目標を上回った事業）」「B（成果目標をほぼ達成した事業）」「C（成果目標を下回った事業）」「※（数値目標を設けていない事業）」で評価しております。

次に11頁「表8 方針及び事業別の進捗評価・評価区分別事業割合」の左側の「方針及び事業別の進捗評価」の部分をご覧ください。こちらでは、それぞれの方針の中に、A、B、C、※にて評価した事業がどれだけあったかを表にしたものです。その結果をもとに、重点項目及び各方針について、「◎（十分に進捗が図られている）」「○（概ね進捗が図られている）」「△（進捗が図られていない）」「×（全く進捗が図られていない）」で評価をしています。これらの結果から、平成27年度の基本計画の実施状況といたしましては、「検討を要する取り組みはあるものの概ね進捗が図られている」と評価しております。

本市といたしましては、この基本計画の進捗が図られていることが、本市のものづくり産業が振興していることと同義とは捉えておりません。今後も産業支援機関等と連携を取りながら、ものづくり産業の振興に注力して参ります。

続きまして、議事（2）第3次ものづくり産業振興基本計画策定に向けたスケジュールについてご説明いたします。資料2をご覧ください。第3次基本計画は、平成31年3月の策定を予定しております。それまでの期間、資料にも記載のとおり、産業政策課にて平成29年度に作成予定の「平成23年静岡県産業連関表」を用いて、本市ものづくり産業の分析や課題の洗い出しを行いたいと考えております。

また、平成29年9月末で今期委員のみなさまの任期が満了となり、来期の任期がスタートいたします。そのタイミングで、第3次ものづくり産業振興基本計画策定について諮問をさせていただき、平成30年度中に当局に対し、答申をいただきたいと考えております。

事務局からの説明は以上となります。

【山内会長】

ありがとうございました。

本日が実質、第3次基本計画を策定するスタートの日になると認識しています。現行の第2次基本計画の内容は、非常によくできたものであると思っておりますが、時間が経過すると、新しい問題や課題点が出てきます。そういった内容を盛り込んでいながら、先を見据えた新しい基本計画を検討していきたいと考えております。

それでは、次の項目に移りたいと思います。「静岡県ものづくり産業における雇用の現状とトレンド及び雇用誘発効果」について、牧野教授より、ご説明いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【牧野委員】

静岡産業大学の牧野でございます。私は統計学を専門としておりますので、本日は「静岡市のものづくり産業の現状と課題―雇用の観点から―」と題しまして、静岡市のものづくり産業を統計学の観点からご説明したいと思っております。

《説明の要点》

- ・静岡市の人口流出の多さは、21の大都市の中で4番目の多さであり、喫緊の課題であるため、雇用の観点から検討することが必要。
- ・静岡市で従業する製造業の就業者数は、卸売業・小売業に次いで2番目（15～16%）の多さであり、静岡市にとっては重要な産業であるが、一方で、近年10年間で製造業の就業者は約6,000人減少しているという現実もある。（その理由として考えられるのは、事業所数の減少や、機械化等による人員の削減など。）
- ・以上を踏まえ、産業ごとに雇用の現状やトレンドを整理することが必要。
- ・雇用の現状としては、以前は1年あたり約1,000人減少していたところ、近年は約800人の減少となり、減少傾向に歯止めがかかってきてはいるものの、依然として減少傾向である。
- ・従業者数のトレンドは業種により異なり、そのトレンドを予測することで、製造業の構造変化を予測することができる。たとえば、現在市内の「食料品製造業」「金属製品製造業」の従業者数が多いが、その反面、従業者数が比較的大きく減少している業種でもある。また、従業者数が比較的大きく増加している業種は「はん用機械器具製造業（冷凍機（冷凍ショーケース）、業務用エアコン等の製造）」である。
- ・静岡市の5つの主たる製造業（①空調・住宅関連機器、②電気照明器具、③自動車部品・附属品、④冷凍機・温室調整装置、⑤特殊産業機械）が、原材料やエネルギー、部品の取引を通じ、市内で誘発する雇用量を「平成17年静岡市産業関連表」を用いて分析したところ、雇用誘発力が最も大きい産業はロボットなどの「特殊産業機械」であるという結論が導き出された。

【山内会長】

牧野委員、ありがとうございます。

それでは、本日の議事全般について、何か質問や感想などがありましたら発表していただきたいと思っております。

【小澤委員】

牧野委員、貴重なお話をありがとうございました。

静岡商工会議所では、小規模な製造事業者と接する機会が多く、窓口相談を通じて感じ

ていることは、事業承継の対策が遅れ、廃業せざるを得ない状況になってしまう事業者が多いということです。当会議所でも、「第3次中期行動計画」という3か年の計画を策定したところですが、事業承継の促進は大きな柱の一つとして位置付けられています。

また、議事（1）第2次ものづくり産業振興基本計画掲載事業 進捗状況のご報告の中で地場産業の後継者問題についてもお話がありましたが、製造業においても若者の流出は大きな課題であるため、当会議所でも就職支援課、雇用対策課を新設し、若者に地元の企業に就職してもらうための取り組みに力を入れていくつもりです。人材確保・人材育成の課題は長い時間がかかるものであるため、単体の団体での支援ではなく、市や産業支援団体などを巻き込んだ地域ぐるみでの支援を実施していく必要があるのではと感じました。

【立岩委員】

牧野委員、ありがとうございました。

私の勤務する会社でも、近年、新入社員の配属先は「何かを研究する部署」が多く、新しいことの開発に従事する社員が多いように感じていました。牧野委員のお話を伺って、これからは静岡市の産業形態が変わっていくような印象を受けました。

【松岡委員】

牧野委員、ありがとうございました。

ただ今のご説明では、従業員数に特化した分析内容となっておりますが、従業員数に加えて、出荷額や生産額との比較の分析も必要ではないかと感じました。具体的に申し上げますと、静岡市は海外生産に向かない産業が多いと聞いたことがあります。事業所数が減少してしまう要因の多くは、本体の企業が海外生産に移行することで、付随する傘下の企業も海外についていかなければならないという状況となってしまうことだそうです。ただ、静岡市の主たる製造業の一つであるエアコンは、製造業の中でも生産調整が難しいと言われています。関連企業の方に伺ったお話だと、気温1度の変化で生産量が大きく変わってくるため、海外生産だと激しい受注の増減に迅速に対応することが難しいことが要因だということです。こういったことから、海外では生産調整への対応が難しい業種という切り口から、産業の集積を図ることも良いのではないかと思います。

また、静岡市は浜松市と比較すると、リーマンショック後の影響が少なかったようですが、そういった観点から、静岡市の産業構造の強みを今一度検証し、従来ある強みをもっと強くすべきではないかと思えます。

さらに、静岡市が人を呼び込むためには、就職先の支援だけではなく、ライフスタイルについても提案する必要があるのではないのでしょうか。たとえば、東京と比べ、静岡市の駅前にとりだしの物件があり、どれくらいの賃金があればどれくらいの物件が借りられるのか、また、首都圏から移住してくる若者の多くは車を持っていないことが想定されるため、住居費に加え、車の維持費を加味したシミュレーションや、実際の生活のイメージを

持ってもらうことが重要ではないかと考えます。

【望月(有)委員】

牧野委員、ありがとうございました。

牧野委員のご説明についての感想となりますが、静岡市の主たる産業を伸ばしていく施策の検討と並行して、そういったリーディング企業に付随する中小企業の生産性の向上に対する施策は、住み分けて把握する必要があるのではないかと感じました。

【望月(磨)委員】

先ほど小澤委員からも若者の県外流出のお話がありましたが、静岡県内にある大学は首都圏等の大学と比べて学部数が少ないことが原因ではないかと思えます。また、恥ずかしながら私自身も、大学に進学するまでは静岡市の主たる産業がどういったものなのかはつきりと把握できておらず、地元企業への理解がそれほど深くなかったように思います。高校生の中に企業訪問を実施したり、企業の方を講師で招き、お話を聞くなど、企業と学生がもっと近い存在になり、学生の地元産業への誇りを高め、最終的には地元企業に就職してもらえるような施策が必要ではないかと感じました。

【杉山委員】

伝統工芸の観点から申し上げます。まず、牧野委員のお話を聞いた純粋な感想としては、伝統工芸から見ると、大規模な製造業の企業でも従業員数が減っていくという状況の中で、伝統産業の人材を確保し続けていくのがどれだけ大変かを、身に染みて感じたところです。市内に根付いている伝統工芸や職人の技術をしつかりと後世へ繋げていくためには、職人の後継者育成支援をはじめ、販路や販売促進支援などに真剣に取り組んでいく必要があると感じました。

【上妻委員】

牧野委員、ありがとうございました。ただ今の講演は非常にわかりやすく、理解が深まりました。その中で感じたことですが、従業員数の減少には様々な要因があるため、それぞれを分離して捉えていくのが次のステップとなるのではないかと感じました。たとえば、退職者が多かったことが要因で従業員数が減少したのであれば、それを追求してもそれほど意味がないと思います。また、自然現象により、絶対的な人口が減少した結果、従業員数が減少したのであれば、それはまた別の問題として分離して考えなければならないと思います。

さらに言えば、従業員数の減少が必ずしも悪いことではない場合もあります。たとえば、従業員数が減ったことにより生産性が向上している場合もあるので、従業員数だけではなく、売上や生産額を加味して考える必要があると思います。統計学では捉えられない問題

をいかに把握できるかが、今後キーポイントになってくるのではないかと感じました。

【鳥羽副会長】

牧野先生、ありがとうございました。こういった統計データを見ると、我々伝統工芸の事業所はとても小さな規模ではありますが、伝統工芸産業の存在意義は、常々申し上げていることですが、文化的な価値の創造であると考えています。伝統工芸産業が盛んな京都や金沢は観光地としてもネームバリューがあり、魅力的な街として認知されています。静岡市の伝統工芸産業は、全国的な知名度としては今一步といったところですので、どう盛り上げていったら良いのか考えさせられます。

また、現在職人が一人しかいない業種もありますので、「保存」という観点からも、検討していかなければならないと感じています。

【山内会長】

みなさま、ありがとうございました。それでは、これまでの内容を振り返って、何かご意見がある方はいらっしゃいますか。

【上妻委員】

「平成 27 年度静岡市ものづくり産業振興基本計画に関する実施状況の報告」の中に、企業 OB 技術者と地元企業のマッチング事業について記載されておりますが、マッチングを成功させるためには、企業のニーズと OB 技術者等の能力について把握することが非常に重要です。

また、実際にマッチングが成功した場合、報酬や支援する期間の決め方や、進捗管理等において、きめ細かなフォローができるコーディネーターが必要だと思います。コーディネーターがいないと、当初の想定とは異なる問題が発生した際に、別の人材を探すなどの解決策を示すことができず、結果として企業のニーズを満たせずに終わってしまう可能性があるからです。この事業は非常に有意義であり、推進すべきだと思いますが、課題もたくさんあることを申し上げておきたいと思います。

【山内会長】

それでは時間も迫って参りましたのでまとめとさせていただきます。以前より申し上げておりますが、これからはあらゆる産業に関わる IoT をどう捉えていくかが非常に重要であると考えております。第3次ものづくり産業振興基本計画を検討していく上で、IoT を導入した産業が実際に成功しているのか検証する必要がありますが、本日の牧野委員のお話はその基礎となる内容であったと思います。

また、大きな課題である人材不足を解消する手段の一つとして、現在日本に約 100 万人いると言われている外国人労働者の活用を視野に入れなければならないと考えています。

さらに、伝統工芸産業の分野では地域の特徴を捉えていくことがポイントとなってくるのではないのでしょうか。最近清水港にたくさんの外国人が入国していますが、その外国人に向けて PR することも良い方法だと思います。

最後に、日本の中央に位置する静岡・清水が何らかの形で生きていく形を、行政と連携しながら議論していきたいと考えております。

それでは、司会を事務局に戻します。

(事務局：佐藤産業振興課長補佐)

みなさま、ありがとうございました。閉会を杉山参与兼産業振興課長にお願いしたいと思っております。

(事務局：杉山参与兼産業振興課長)

皆様、本日は最後まで熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。

また、牧野委員、大変貴重なお話をありがとうございました。皆様からもご意見がありましたが、合理化によって生産性が向上しているかどうかの検証や、静岡市の雇用のトレンドは、全国的な傾向と比較するとどうなのかという考察についても、今後検討していく必要があると感じました。

この審議会では、平成 29 年度から第 3 次ものづくり産業振興基本計画の策定に向けた議論がスタートしますので、何卒御協力いただきますよう、お願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

本会議録は、平成 29 年 3 月 27 日開催の「第 18 回静岡市ものづくり産業振興審議会」の会議内容と同一であることを証する。

署名人 会 長

委 員